一般社団法人日本口蓋裂学会 令和 3（2021）年度第 12 回会員報告

日　時：令和 3（2021）年 5 月 21 日（金）
場　所：宝塚ホテル(実際の集会はなし)

・報告事項

１号　理事長報告---------- 2
２号　庶務報告---------- 3
３号　各種委員会報告---------- 5
４号　令和4（2022）年度第46回総会・学術集会準備状況---------- 10
５号　令和5（2023）年度第47回総会・学術集会準備状況---------- 11
６号　令和3年度事業計画および予算の件---------- 12
７号　令和2年度事業報告および決算の件---------- 14
８号　令和3・4(2021・2022)年度評議員報告---------- 19
９号　令和3・4(2021・2022)年度理事報告---------- 20
10号　令和3・4（2021・2022）年度常務理事，各種委員会委員長報告---------- 21
11号　名誉会員推戴の件---------- 22
12号　2025年国際学会会長推薦の件---------- 22

Ⅰ　報告事項

１号　理事長報告---------- 古郷理事長

理事長退任のご挨拶

前理事長　古郷幹彦

コロナ禍にともなう学術集会形式変更により会員総会ができず、会員の皆様に理事長としての退任のご挨拶ができませんでした。ここでご挨拶させていただきます。

日本口蓋裂学会は1961年よりの口蓋裂言語治療談話会の発展的解消により1970年口蓋裂研究会として発足し、1976年日本口蓋裂学会となりました。当初会員数293名でしたが、現在は正会員数約3200名(本年3月時点)となっております。長い歴史の間に本疾患にかかわる医科・歯科・言語・看護等の専門家が一堂に会し、本疾患の予防・治療成績の向上をめざして医療体制を前進させるという目的をもって多くの先生方が参加していただけるようになりました。本疾患は医学研究や医療全体からみると大きく目立つ疾患ではないかもしれません。しかし顎顔面も先天異常ということで疾患を持つ患児やご家族には苦しみを与えていることは以前と変わりません。少子化で発生数が結果として減少していても約500人に1人という率には変わりなく、以前より良好な結果が得られるようになったとは言え、全く完全な治癒が得られる方法が確立されてはいません。本疾患にかかわる各分野の専門家の努力・連携が残る様々な問題を解決する大きな力となると思っております。私は大学卒業後約 40 年の間多くの先生方の努力を見てきました。多くの匠の先生方もみてきました。悪性腫瘍や免疫研究のような大きな資金のビックプロジェクトを組めることもない状況で先生方の地道な努力でここまで進んできたと思います。これまでの歴史的努力で日本口蓋裂学会は2025年国際大会誘致ができるまでになりました。本年ACPAから学術集会のゲストネーションに選ばれました。2025 年国際大会において我が国の実力を本学会が世界に示せること、世界の多くの患者が救われること、先生方に託したいと思います。この2年間コロナ禍によって昨年の学術集会誌上開催、本年のWEB開催、認定師制度のこと、認定師セミナーのこと等々、思い起こせばいろいろなことがありました。この間、学会役員の先生方、評議員の先生方、大会長、会員の先生方、事務局の方々、多くの方々に支えていただきました。有難うございました。私はここで退任します。槇理事長に引き継ぎます。何といっても口唇裂・口蓋裂の患者の福音のために本学会が大きく発展することを期待したいと思います。よろしくお願いいたします。

２号　庶務報告---------- 野口総務担当理事

１．会員数の動向

１）正会員数		３，１９２名（令和３（2021）年３月 31 日現在）
＜内訳＞	新入会	１０８名
	退会	１７３名
２）賛助会員		８社
＜内訳＞	新入会	０社
	退　会	０社

２．各種会議について

１）理事会
令和２（2020）年度第１回
令和２（2020）年 ６ 月 10 日（水） (ZOOM)
令和２（2020）年度第２回
令和３（2021）年 ３ 月 ９ 日（火） (ZOOM)

２）社員総会（評議員会）
第 12 回（令和２（2020）年度第１回）
令和２（2020）年６ 月 18 日（木） (ZOOM)

３）編集委員会
令和２（2020）年度第１回（45 巻３号）
令和２（2020）年８月３日（月） (ZOOM)
令和２（2020）年度第２回（46 巻１号）
令和２（2020）年 12 月 24 日（木） (ZOOM)

４）ＩＴ委員会
令和２（2020）年度第１回
令和２（2020）年 10 月 15 日(木) (ZOOM)

５）Japancleft 委員会
言語評価 WG
令和２（2020）年 ４月 26 日（水） (ZOOM)
言語評価 WG
令和２（2020）年 ５月 17 日（金） (ZOOM)
言語評価 WG
令和２（2020）年 ５月 24 日（日） (ZOOM)
言語評価 WG
令和２（2020）年 ６月７日（日） (ZOOM)
言語評価 WG
令和２（2020）年 ７月 26 日（日） (ZOOM)
言語評価 WG
令和２（2020）年 10 月 18 日（日） (ZOOM)
言語評価 WG
令和３（2021）年 １月 31 日（日） (ZOOM)
言語評価 WG
令和３（2021）年 ３月７日（日） (ZOOM)

７）診療ガイドライン作成委員会　令和 2（2020）年度第 1 回
令和 3（2021）年 3 月 4 日（木）　（ZOOM）

８）将来検討委員会　令和 2（2020）年度第 1 回
令和 2（2020）年 12 月 15 日（火）　（ZOOM）

９）国際委員会　令和 2（2020）年度第 1 回
令和 3（2021）年 2 月 8 日（月）　（ZOOM）
令和 3 年(2021)年第 1 回
令和 3 年(2021)年 5 月 8 日(土)　（ZOOM）

10）国際学会準備委員会　令和 2（2020）年度第 1 回
令和 3（2021）年 2 月 8 日（月）　（ZOOM）

11）認定師認定委員会

認定師認定審査会
令和 2（2020）年 12 月 6 日（日）　（音声言語）
令和 2（2020）年 12 月 16 日（水）　（口腔外科）
令和 2（2020）年 12 月 16 日（水）　（矯正歯科）
令和 2（2020）年 12 月 18 日（金）　（小児歯科）
令和 2（2020）年 12 月 19 日（土）　（補綴歯科）
令和 2（2020）年 12 月 21 日（月）　（形成外科）

認定師制度委員会　令和 2（2020）年度第 1 回
令和 2（2020）年 12 月 28 日（月）　（ZOOM）
令和 2（2020）年度第 2 回
令和 3（2021）年 3 月 1 日（月）　（ZOOM）

３．機関誌発行状況

○日本口蓋裂学会雑誌第 46 巻 1 号を令和 3 年 4 月に発行した。
統計 1 編、原著 3 編、総説 1 編　症例 1 編　計 46 ページ

○日本口蓋裂学会雑誌第 46 巻 2 号を令和 3（2021）年 5 月に発行した。
第 45 回日本口蓋裂学会総会・学術集会プログラム、講演抄録、計 144 ページ

３号　各種委員会報告

１）編集委員会----------　中村委員長

・日本口蓋裂学会雑誌第 46 巻 1 号を令和 3（2021）年 4 月に発行した
・日本口蓋裂学会雑誌第 46 巻 2 号を令和 3（2021）年 5 月に発行した

２）学術委員会----------　山田委員長

・第 45 回学術集会応募演題の 99 件の査読を行った

３）学術調査委員会----------　髙木委員長

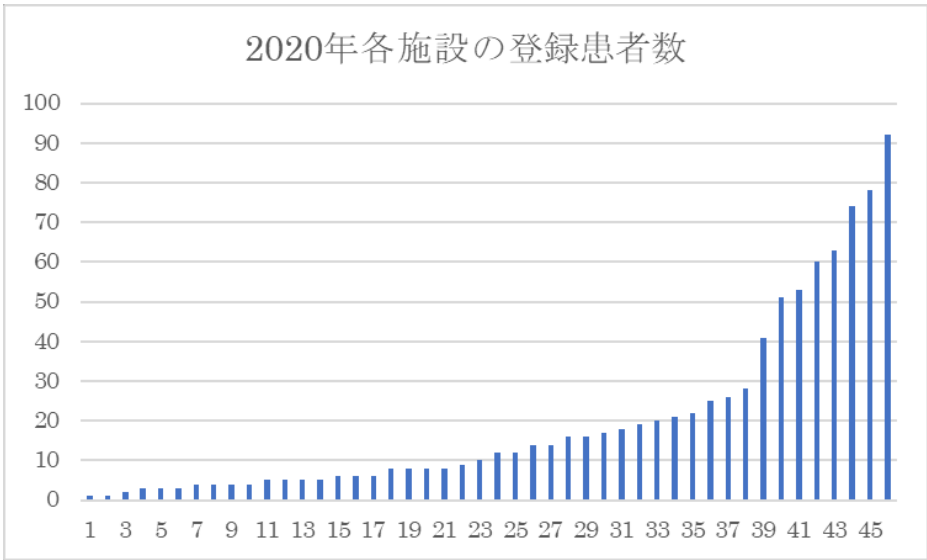
日本口蓋裂学会　学術調査委員会

活動報告

「口唇裂・口蓋裂児出生に関する実態調査（2019）」

調査結果（2021 年 4 月末現在）
登録施設数：65 施設
資料提出施設数：48 施設（73.8%）
登録患者数：911 症例

登録施設の患者数



最小：1 例
最大：98 例
1～20 例：34 施設
21～40 例：6 施設
41～60 例：4 施設
61～80 例：3 施設
81～100 例：1 施設

４）会則検討委員会----------　上田委員長

５）国際委員会---------- 須佐美委員長

令和３年度会員総会　国際委員会報告

令和 3 年 5 月 21 日（Zoom 会議）

報　告

- 令和 2 年度第 2 回　国際委員会・国際学会準備委員会合同委員会開催
  2 月 8 日（月）17:30～19:00、Zoom 会議
  令和 3 年度第 1 回　国際委員会・国際学会準備委員会合同委員会開催
  5 月 8 日（土）18:00～19:00、Zoom 会議

- 第 14 回国際口蓋裂学会（14th International Congress on Cleft Lip and Palate Related Craniofacial Anomalies: CLEFT 2022）
  2022 年 7 月 11-15 日
  英国・エジンバラ：Edinburgh International Conference Centre
  抄録締め切り 2022 年 1 月 14 日（金）
  ウェブサイト　https://cleft2022.com/（登録すると最新情報入手可能）

- ICCPCA (International Confederation of Cleft Lip and Palate and Related Craniofacial Anomalies) Webinar Series　(登録すると過去のものも視聴可能)
  1st Webinar Series: Cleft Surgery
  Unilateral cleft lip and nose repair: Dr. Philip Chen
  (16th January 2021, 12:00 GMT)
  Cleft palate repair: Dr. Brian Sommerlad　＊GMT：Greenwich Mean Time
  (20th March 2021, 12:00 GMT)
  Bilateral cleft lip and nose repair: Dr. David Fisher (TBA)
  (22nd May 2021, 12:00 BST　＊BST：British Standard Time
  Speech surgery – (TBA)
  Alveolar bone grafting – (TBA)
  Cleft septorhinoplasty – (TBA)　＊TBA：To Be Announced

- ICCPCA Task Force

  CLETFT 2021 に向けた Task Force の活動が進められているが、新型コロナの影響で活動が鈍っているようである。Global Cleft Team Registry に関しては、座長 Ronald Hathaway 先生によると Google map 上に世界の口蓋裂治療に関する施設・学会、患者団体、ウェブサイトをマップする予定で進めている。

- そのほかの国際学会
  - ACPA'S VIRTUAL ANNUAL MEETING：　終了
    (American Cleft Palate-Craniofacial Association)
    2021 年 4 月 29 日―5 月 1 日
    American Society of Craniofacial Surgeons (ASCFS) 共催
  - ECPCA2024 Congress (European Cleft Palate Craniofacial Association)
    2024 年 6 月、ミラノ・イタリア（1 年延期された）
  - 10th Asian Pacific Cleft Lip-Palate & Craniofacial Congress
    2023 年、台湾の予定（詳細不明）

６）ＩＴ委員会---------- 朝戸委員長

IT 委員会　更新一覧

更新日	ページ位置	更新内容
2020/4/10	TOPページ	新型コロナウイルス感染拡大に伴うステートメント
2020/5/20	認定師制度ページ	申請用手引き・書式当一式更新
2020/6/1	海外研修奨励制度ページ	海外研修ページご案内の掲載
2020/6/24	認定師制度ページ	各分野書式サンプル差し替え
2020/7/31	TOPページ	認定師セミナー公示・概要の掲載
2020/8/6	TOPページ	令和2年度「口唇裂・口蓋裂出生に関する実態調査(2019)」のお願いの掲載
2020/8/20	認定師制度ページ	書式・サンプルの更新
2020/8/28	TOPページ	学術調査委員会　お願い更新
2020/9/15	入会案内ページ	よくある質問の更新、年会費並びに口座情報が目立つように更新
2020/12/22	TOPページ 学術集会ページ	第45回大会情報掲載
2021/2/10	TOPページ	学術調査委員会　リマインド掲載
2021/3/9	TOPページ	更新履歴等修正
2021/3/16	TOPページ	トップページ更新
2021/3/31	学会雑誌ページ	学会雑誌情報更新

7）優秀論文賞選考委員会---------- 阪井委員長

（14 頁参照）

2020年度優秀論文賞受賞者

・合島　怜央奈　（佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座） 症例
「異なる裂型を呈する二卵性双生児の長期観察」

・平野　友紀子　（東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科）原著
「片側性唇顎口蓋裂患者の術前硬口蓋後端裂幅と術後言語機能との関連」

・内野　夏子　（東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科）原著
「唇顎裂・唇顎口蓋裂患者に用いる人工歯付き固定式保定装置―接着ブリッジとしての可能性」

選考対象論文一覧

巻・号	頁	論文種別	論文題名	著者氏名	共著者	所属
45巻1号	p. 1-11	統計	福岡歯科大学医科歯科総合病院矯正歯科における先天性疾患患者の実態調査	藤田　隆寛	他6名	福岡歯科大学成長発達歯学講座矯正歯科学分野
45巻1号	p. 12-15	臨床	口唇裂術後の全身麻酔下抜糸の取組み	奥村　慶之		日本赤十字社和歌山医療センター形成外科
45巻1号	p. 16-21	臨床	海外研修報告　―米国Nationwide Children’s Hospital Craniofacial Clinicでの口唇口蓋裂に関する治療体系―	緒方　祐子	他1名	医療法人倉重こどもクリニック
45巻1号	p. 22-30	臨床	海外研修報告　―米国Nationwide Children’s Hospital Craniofacial Clinicでの言語療法　―	緒方　祐子	他1名	医療法人倉重こどもクリニック
45巻1号	p. 31-39	症例	異なる裂型を呈する二卵性双生児の長期観察	合島　怜央奈	他3名	佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座
45巻3号	p. 197-202	原著	片側性唇顎口蓋裂患者の術前硬口蓋後端裂幅と術後言語機能との関連	平野　友紀子	他9名	東京大学医学部附属病院口腔顎顔面外科・矯正歯科
45巻3号	p. 203-212	原著	唇顎裂・唇顎口蓋裂患者に用いる人工歯付き固定式保定装置―接着ブリッジとしての可能性	内野　夏子	他6名	東京大学医学部附属病院　口腔顎顔面外科・矯正歯科
45巻3号	p. 212-219	原著	口唇裂・口蓋裂の孫をもつ祖母の心理状態―娘・家族に関連する心理的側面―	熊谷由加里	他5名	大阪大学歯学部附属病院　看護部
45巻3号	p. 220-224	症例	口唇形成術後に肺炎加療を要した13トリソミー患児の一例	中囿賢太	他5名	鹿児島大学大学院　医歯学総合研究科先進治療科学専攻　顎顔面機能再建学講座　口腔顎顔面外科学分野
45巻3号	p. 225-236	症例	Le Fort I型骨切り術により上顎骨の前下方移動とyawingの改善を図った左側唇顎口蓋裂の1例	藤本舞	他6名	明海大学歯学部 形態機能成育学講座歯科矯正学分野
45巻3号	p. 237-245	症例	口唇口蓋裂患者に磁性アタッチメントを適用した補綴歯科治療の長期経過観察	松川良平	他5名	愛知学院大学歯学部 有床義歯学講座

8）優秀ポスター賞選考委員会---------- 阪井委員長

・一般演題をウェブ発表賞として審査を行う

9）Japancleft 委員会 ---------- 齋藤委員長

・本年度第1回委員会　令和3（2021）年5月19日開催

10）診療ガイドライン作成委員会 ---------- 髙橋委員長

・本年度第 1 回委員会　令和 3（2021）年 5 月 19 日開催

11）将来検討委員会 ---------- 上田委員長

12）倫理委員会 ---------- 須佐美委員長

13）認定師制度委員会 ---------- 飯田委員長

14）認定師認定委員会 ---------- 飯田委員長
（15 頁参照）

・本年度第 1 回委員会　令和 3（2021）年 5 月 19 日開催

・2020 年度審査結果について

→58 名中 55 名合格
内訳：矯正歯科 22 名、口腔外科 13 名、形成外科 9 名
音声言語 4 名、補綴歯科　5 名、小児歯科 2 名

・認定師リスト掲載について

→学会ホームページに都道府県別リスト・分野別リストを掲載予定

・今年度の募集期間と審査スケジュールについて

2021 年：募集　2020 年 9 月 1 日～2020 年 9 月 30 日

15）海外研修奨励制度委員会 ---------- 隅田委員長

・本年度第 1 回委員会　令和 3（2021）年 5 月 19 日開催

16）国際学会準備委員会---------- 阪井委員長

・本年度第 1 回委員会　令和 3（2021）年 5 月 8 日開催（国際委員会と合同開催）

４号　令和 3（2022）年度第 46 回総会・学術集会準備状況---------- 中村次期会長

第 46 回日本口蓋裂学会総会・学術集会の日時
令和 4 年(2022 年) 5 月 25 日：理事会・会長招宴
5 月 26-27 日：総会・学術集会
第 46 回日本口蓋裂学会総会・学術集会の開催場所
学術集会：鹿児島県民交流センター
会長招宴・会員懇親会：城山ホテル

第 46 回日本口蓋裂学会総会・学術集会学会テーマ
テーマ:「健やかな笑顔を育む -心身両面を支える全人的医療の実践- For Smile and Health of Children -Holistic approach in the management of cleft lip & palate」

【プログラム】

特別講演

Dr. Debbie Sell, OBE, PhD, FRCSLT,
Independent Consultant Speech and Language Therapist, Co-Founder Speech@Home and Senior Research Fellow, Centre for Outcomes and Experience Research, in Child Health, Illness and Disability, Great Ormond Street Hospital for Children NHS Foundation Trust, London, UK.

Dr. Triona Sweeney, PhD, MSc, MIASLT,
Independent Consultant Speech and Language Therapist, Co-Founder Speech@Home, Dublin.

「Speech at Home - an Innovative Approach to Cleft Speech Intervention」

教育講演

麻生 俊英 先生 元神奈川県立こども医療センター心臓血管外科部長
「最新の心臓手術と家族への支援」

中新　美保子 川崎医療福祉大学保健看護学部 保健看護学科 教授
「口唇裂・口蓋裂に対する自己認識の実態と次世代に向きあうための支援（仮)」

口唇裂・口蓋裂認定師申請単位認定セミナー

シンポジウム等

シンポジウム 1　心身両面を支える全人的医療の実践
シンポジウム 2　口唇形成術
シンポジウム 3　言語（構音治療の GOAL 設定など）
シンポジウム 4　矯正歯科（小児期の咬合管理）
シンポジウム 5　口唇口蓋裂の外科矯正治療
パネルディスカッション 心理支援 -患者家族の立場から-

言語ワークショップ 多職種で行う口蓋裂言語の聴覚的評価

ランチョンセミナー

一般講演：Web 発表のみするかどうかはポストコロナの状況をみて決定
ポスター発表：演題募集するかどうかはポストコロナの状況をみて決定

５号　令和 5（2023）年度第 47 回総会・学術集会準備状況----------　森山次々期会長

第 47 回 日本口蓋裂学会総会・学術集会　準備状況

会　長：　森山　啓司
（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　顎顔面矯正学分野　教授）

事務局：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科　顎顔面矯正学分野内
事務局長　小川　卓也

会　期：　第１候補　2023 年（令和５年）5 月 25 日（木）～26 日（金）
　　第２候補　2023 年（令和５年）6 月 1 日（木）～2 日（金）

会場候補：　一橋講堂
　　東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター

６号　令和3（2021）年度事業計画および予算の件---------- 古郷理事長
上田会計担当理事

令和 3（2021）年度事業計画

（令和 3（2021）年 4 月 1 日から令和 4（2022）年 3 月 31 日まで）

一般社団法人日本口蓋裂学会

①学術集会、研究会、講習会の開催事業
第 45 回学術集会の開催

②機関誌の発行事業
第 46 巻の発行

③関係諸団体との連携及び交流
日本学術会議との連携及び交流
日本歯学系学会協議会との連携及び交流
国内外における口蓋裂に関する学術団体との連携及び交流
国内外における医学・歯学に関する学術団体との連携及び交流

④優秀論文賞・優秀ポスター賞表彰事業
令和 2（2020）年度優秀論文賞受賞者の表彰
令和 3（2021）年度優秀論文賞受賞者の選考
令和 3（2021）年ポスター賞（ウェブ発表賞）受賞者の選考

⑤委員会活動
各委員会は法人の目的を達成するために必要な活動を行う
編集委員会
学術委員会
学術調査委員会
会則検討委員会
国際委員会
ＩＴ委員会
優秀論文賞選考委員会
優秀ポスター選考委員会
Japancleft 委員会
診療ガイドライン作成委員会
将来検討委員会
倫理委員会
認定師制度委員会
認定師認定委員会
海外研修奨励制度委員会
国際学会準備委員会

⑥若手研修者短期海外研修
若手研修者短期海外研修の募集・実施

⑦国際口蓋裂学会
国際口蓋裂学会（2025 年）準備

⑧認定師事業
認定師事業の実施

令和３（2021）年度収支予算書

（令和３（2021）年４月１日から令和４（2022）年３月31日まで）

Ⅰ．収入の部		
1．入会金収入		
①会員（個人）	240,000	120名×¥2,000
2．会費収入		
①正会員（個人）	30,000,000	3,000名×¥10,000
②賛助会員（個人及び団体）	240,000	8社×¥30,000
3．事業収入		
①学術集会、研究会、講習会	15,400,000	学術集会¥15,400,000
②機関誌	700,000	投稿料・別刷料、広告料、雑誌頒布
③関係諸団体との連携及び交流	0	
④認定師事業	3,000,000	（仮）審査料￥10,000×100名・登録料￥10,000×100名・セミナー受講料2,000×500
4．寄付金・補助金収入	200,000	
5．雑収入	100,000	利息、手引書頒布ほか
当期収入合計(A)	**49,880,000**	
前期繰越収支差額	26,000,000	予算は見込み金額
収入合計(B)	75,880,000	
Ⅱ．支出の部		
1．事業費		
①学術集会、研究会、講習会	20,000,000	学術集会¥20,000,000
②機関誌	10,000,000	印刷費、発送経費（送料、封筒）、英文校正料、J-STAGE搭載費
③関係諸団体との連携及び交流	500,000	国内外渉外関係、ホームページ運営
④表彰事業	405,000	論文賞3名、ポスター賞9名(選考応募の1
⑤委員会	2,500,000	委員会開催・運営経費
⑥若手研修者短期海外研修費	1,360,000	
⑦国際口蓋裂学会	880,000	
⑧認定師事業	1,700,000	
2．管理費		
①理事会運営費	1,400,000	3回開催予定
②総会運営費	300,000	社員総会、会員総会
③通信費	650,000	事務通信、会費請求経費
④消耗品費	200,000	事務封筒、払込用紙、事務用品
⑤図書印刷費	150,000	会議等資料印刷
⑥旅費交通費	140,000	事務局出張経費
⑦事務局運営費	1,610,400	事務委託費
⑧租税公課	100,000	
⑨支払報酬	80,000	
⑩雑費	50,000	振込手数料など
3．国際学会開催積立費	2,000,000	
4．予備費	2,379,600	
当期支出合計(C)	**46,405,000**	
当期収支差額(A)－（C)	3,475,000	
次期繰越収支差額(B)－(C)	29,475,000	

※国際学会誘致活動積立費は平成26年度より開始したが、誘致成功のため平成29年度より廃止。
代わりに3．国際学会開催積立費を積立開始。

7号　令和2年度事業報告および決算の件---------- 古郷理事長

令和2年度事業報告

（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

一般社団法人日本口蓋裂学会

①学術集会、研究会、講習会の開催事業

第44回学術集会の紙面開催

②機関誌の発行事業

第45巻の発行

③関係諸団体との連携及び交流

国際口蓋裂学会との連携及び交流
国際口蓋裂学会（2025年）準備
日本学術会議との連携及び交流
日本歯学系学会協議会との連携及び交流
国内外における口蓋裂に関する学術団体との連携及び交流
国内外における医学・歯学に関する学術団体との連携及び交流

④優秀論文賞・優秀ポスター賞表彰事業

令和2年度優秀論文賞受賞者の表彰
令和3年度優秀論文賞受賞者の選考

⑤委員会活動

各委員会は法人の目的を達成するために必要な活動を行った

編集委員会
学術委員会
学術調査委員会
会則検討委員会
国際委員会
ＩＴ委員会
優秀論文賞選考委員会
優秀ポスター選考委員会
Japancleft委員会
診療ガイドライン作成委員会
将来検討委員会
倫理委員会
認定師制度委員会
海外研修奨励制度委員会
国際学会準備委員会
認定師認定委員会

令和２年度収支計算書

（令和２年４月１日から令和３年３月31日まで）

一般社団法人日本口蓋裂学会

科　　目	予算額(円)	**実績額(円)**	執行率	備　　考
Ⅰ．収入の部				
1．入会金収入				
①正会員（個人）	240,000	**184,000**	77%	92名×￥2,000
2．会費収入				
①正会員（個人）	25,200,000	**26,476,000**	105%	574 名×¥8,000　10,000×2,159、一部入金2,000×147
②賛助会員（個人及び団体）	240,000	**240,000**	100%	8社×￥30,000
3．事業収入				
①学術集会、研究会、講習会	15,400,000	**200,027**	1%	第44回学術大会
②機関誌	700,000	**686,918**	98%	投稿料319,689、別刷料31,460、雑誌頒布217,920、印税117,849
③認定師事業	4,000,000	**3,160,000**	79%	
④関係諸団体との連携及び交流	0	**0**	－	
4．寄付金・補助金収入	200,000	**0**	0%	
5．雑収入	100,000	**21,000**	21%	手引書頒布
当期収入合計(A)	46,080,000	**33,367,945**	72%	
前期繰越収支差額	26,000,000	**27,449,007**	105%	
収入合計(B)	66,080,000	**60,816,952**	92%	
Ⅱ．支出の部				
1．事業費				
①学術集会、研究会、講習会	20,000,000	**4,409,300**	22%	第44回学術大会
②機関誌	10,000,000	**8,797,225**	88%	45巻1,2,3号
③関係諸団体との連携及び交流	500,000	**451,500**	90%	歯学協年会費、HP更新
④優秀論文賞・優秀ポスター賞	710,000	**425,410**	60%	論文賞3名、名誉会員証楯
⑤委員会	2,000,000	**17,600**	1%	ZOOM委員会,
⑥若手研修者短期海外研修費	1,360,000	**0**	0%	
2．管理費				
①理事会運営費	1,200,000	**0**	0%	
②総会運営費	600,000	**0**	0%	
③通信費	650,000	**657,612**	101%	事務通信
④消耗品費	200,000	**223,960**	112%	事務封筒、払込取扱票、事務用品他
⑤図書印刷費	100,000	**0**	0%	会議等資料印刷
⑥旅費交通費	140,000	**0**	0%	事務局出張経費
⑦事務局運営費	1,610,400	**1,610,400**	100%	事務委託費
⑧租税公課	100,000	**70,000**	70%	法人都民税
⑨支払報酬	80,000	**0**	0%	登記変更手数料
⑩雑費	50,000	**40,483**	81%	振込手数料
3．国際学会開催積立費	2,000,000	**4,400,000**	220%	当年度積立 (名簿作成引当金充当分を含む)
4．予備費	2,379,600	**0**	0%	
当期支出合計(C)	46,080,000	**22,019,240**	48%	
当期収支差額（A）－（C）		**11,348,705**		
次期繰越収支差額（B）－（C）	26,000,000	**38,797,712**		

※名簿積立は平成26年度より廃止

※国際学会誘致活動積立費は平成26年度より開始したが、誘致成功のため平成29年度より廃止。
代わりに3．国際学会開催積立費を積立開始。

貸 借 対 照 表

（令和3年3月31日現在）

一般社団法人日本口蓋裂学会

社団法人　日本口蓋裂学会

令和2年度貸借対照表

令和　3 年　3 月　31 日　現在

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
小口現金	1,922	143,383	△141,461
普通預金（三菱UFJ）	15,911,439	14,583,842	1,327,597
普通預金（三菱UFJ基金）	39,998,910	39,999,460	△550
郵便貯金	28,094,921	16,753,201	11,341,720
前払金	4,600,000	4,600,000	
流動資産合計	88,607,192	76,079,886	12,527,306
資産合計	88,607,192	76,079,886	12,527,306
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	409,480	1,230,879	△821,399
学会基金	40,000,000	40,000,000	
流動負債合計	40,409,480	41,230,879	△821,399
2 固定負債			
名簿作成引当金		2,400,000	△2,400,000
国際学会準備費積立金	9,400,000	5,000,000	4,400,000
固定負債合計	9,400,000	7,400,000	2,000,000
負債合計	49,809,480	48,630,879	1,178,601
Ⅲ 正味財産の部			
1 一般正味財産	38,797,712	27,449,007	11,348,705
正味財産合計	38,797,712	27,449,007	11,348,705
負債及び正味財産合計	88,607,192	76,079,886	12,527,306

財　産　目　録

（令和3年3月31日現在）

一般社団法人日本口蓋裂学会

社団法人　日本口蓋裂学会

令和2年度貸借対照表

令和　3年　3月　31日　現在

（単位：円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
小口現金	1,922	143,383	△141,461
普通預金（三菱UFJ）	15,911,439	14,583,842	1,327,597
普通預金（三菱UFJ基金）	39,998,910	39,999,460	△550
郵便貯金	28,094,921	16,753,201	11,341,720
前払金	4,600,000	4,600,000	
流動資産合計	88,607,192	76,079,886	12,527,306
資産合計	88,607,192	76,079,886	12,527,306
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	409,480	1,230,879	△821,399
学会基金	40,000,000	40,000,000	
流動負債合計	40,409,480	41,230,879	△821,399
2 固定負債			
名簿作成引当金		2,400,000	△2,400,000
国際学会準備費積立金	9,400,000	5,000,000	4,400,000
固定負債合計	9,400,000	7,400,000	2,000,000
負債合計	49,809,480	48,630,879	1,178,601
Ⅲ 正味財産の部			
1 一般正味財産	38,797,712	27,449,007	11,348,705
正味財産合計	38,797,712	27,449,007	11,348,705
負債及び正味財産合計	88,607,192	76,079,886	12,527,306

一般社団法人日本口蓋裂学会

理事長　古郷　幹彦　殿

令和２年４月１日から令和３年３月31日までの令和２年度における会計監査を行いました。

財産目録、貸借対照表及び収支計算書は会計帳簿の記載と一致し、一般社団法人の収支状況及び財政状況を正しく示しているものと認めます。

令和３年４月30日　監事　朴　修三

令和３年５月７日　監事　石川博之

令和３年４月28日　監事　飯田征二

令和３・４（2021・2022）年度評議員

（任期：令和３年６月１日から令和５年５月31日まで）

矯正歯科（20名）
五十嵐　薫、石川　博之、石渡　靖夫、上岡　寛、近藤　俊、齋藤　功、
佐藤　嘉晃、須佐美隆史、須田　直人、田中　栄二、谷本幸太郎、平川　崇、
福山　英治、槇　宏太郎、松本　尚之、宮澤　健、宮脇　正一、本吉　満、
森山　啓司、山本　友紀

口腔外科（20名）
飯田　征二、飯野　光喜、桐山　健、児玉　泰光、坂下　英明、須賀賢一郎、
青海　哲也、髙田　訓、髙橋　哲、田中　晋、中村　誠司、中村　典史、
夏目　長門、野口　誠、福田　雅幸、星　和人、三島　克己、山下　佳雄、
山西　整、渡邊　章

形成外科（14名）
赤松　正、朝戸　裕貴、稲川　喜一、上田　晃一、奥本　隆行、
貴志　和生、小林　眞司、小室　裕造、館　正弘、土佐　泰祥、
三川　信之、宮脇　剛司、山本　有平、杠　俊介

音声言語（5名）
井上　直子、緒方　祐子、杉山　千尋、佐藤亜紀子、武井　良子

歯科補綴（2名）
尾澤　昌悟、隅田　由香

小児歯科（3名）
落合　聡、佐々木康成、船津　敬弘

耳鼻咽喉科（2名）
小林　一女、山田　尚宏

その他の歯科（1名）
阪井　丘芳

※アンダーライン：新任

令和３・４（2021・2022）年度理事

（任期：令和３年６月１日から令和５年５月31日まで）

矯正歯科（8名）
齋藤　　功、須佐美隆史、須田　直人、福山　英治、槇　宏太郎、宮脇　正一、
松本　尚之、森山　啓司

口腔外科（7名）

飯田　征二、須賀賢一郎、髙橋　　哲、中村　典史、星　　和人、山下　佳雄、

山西　　整

形成外科（5名）

赤松　正、朝戸　裕貴、上田　晃一、奥本　隆行、杠　　俊介、

音声言語（2名）

緒方　祐子、佐藤亜紀子

歯科補綴（1名）

隅田　由香

小児歯科（1名）

落合　　聡

耳鼻咽喉科（1名）

小林　一女

その他歯科（1名）

阪井　丘芳

令和３・４（2021・2022）年度監事　（任期：令和３年６月１日から令和５年５月31日まで）
飯野　光喜（口腔外科）、石川　博之（矯正歯科），小林　眞司（形成外科）

※アンダーライン：新任

10 号令和 3・4(2021・2022)年度常務理事，各種委員会委員長報告---------- 古郷理事長

日本口蓋裂学会　令和 3・4（2021・2022）年度常務理事，各種委員会委員長

【常務理事】

理　事　長　：槇　宏太郎（矯正歯科）

副 理 事 長　：上田　晃一（形成外科）

総務担当理事　：飯田　征二(口腔外科)

会計担当理事　：宮脇　正一(矯正歯科)

【委員長】

編　集　委　員　会　：山西　　整（口腔外科）

学　術　委　員　会　：須田　直人（矯正歯科）

学 術 調 査 委 員 会　：星　　和人（口腔外科）

会 則 検 討 委 員 会　：上田　晃一（形成外科）

国　際　委　員　会　：須佐美隆史（矯正歯科）

Ｉ　Ｔ　委　員　会　：朝戸　裕貴（形成外科）

優秀論文賞選考委員会　：阪井　丘芳（その他）

優秀ポスター賞選考委員会　：阪井　丘芳（その他）

ＪａｐａｎＣｌｅｆｔ 委 員 会　：佐藤　嘉晃（矯正歯科）

診療ガイドライン作成委員会：髙橋　　哲（口腔外科）

倫理委員会　：須佐美隆史（矯正歯科）

将来検討委員会　：槇　宏太郎（矯正歯科）

海外研修奨励制度委員会　：隅田　由香（歯科補綴）

認定師制度委員会　：飯田　征二（口腔外科）

認定師認定委員会　：飯田　征二（口腔外科）

国 際 学 会 準 備 委 員 会：阪井　丘芳（その他）

※アンダーライン：新任

11 号　名誉会員推戴の件---------- 古郷理事長

古郷　幹彦　先生　（口腔外科）

高木　律男　先生　（口腔外科）

三古谷　忠　先生　（口腔外科）

大慈弥裕之　先生　（形成外科）

朴　　修三　先生　（形成外科）

金子　　剛　先生　（形成外科）

松野　　功　先生　（矯正歯科）

佐藤　昌史　先生　（小児歯科）

鈴木　恵子　先生　（音声言語）

12号　2025年国際学会会長推薦の件---------- 古郷理事長

エジンバラ開催に際して、下記3名を大会長、副会長とする。

2025年国際学会　大会長(仮)　阪井　丘芳　先生
副会長(仮)　槇　宏太郎　先生
副会長(仮)　上田　晃一　先生